

もくじ

この本の考え方	iv
この本の使い方 (この本で学ぶみなさんへ)	vi
この本の使い方 (教師のみなさまへ)	vii
Can-do リスト	ix



ユニット 1	「世界がもし 100 人の村だったら」 ▶自分のことを知ろう	1
▼1	話してみよう	2
▼2	考えてみよう	2
▼3	話し合ってみよう	4
▼4	書いてみよう	4
▼5	もっと調べてみよう	5
コラム	絶対的貧困と相対的貧困	7
語彙リスト		8

ユニット 2	モノカルチャー経済と貧困 ▶貧困のメカニズムを知る	9
▼1	話してみよう	10
▼2	読んでみよう	12
▼3	説明してみよう	14
▼4	書いてみよう	14
▼5	話し合ってみよう	15
▼6	もっと調べてみよう	15
コラム	メールで添付資料を送ってみよう	16
語彙リスト		17

ユニット 3	シエラレオネ ▶情報を集め、人に伝える	19
▼1	話してみよう	20
▼2	資料を集めてみよう	20
▼3	ポスターを作ってみよう	21
▼4	ポスター発表をしてみよう	22
▼5	話し合ってみよう	22
▼6	もっと調べてみよう	23
資料	お兄ちゃんがしゃべったよ！—シエラレオネの少年アラジー	24
コラム	質問は難しい？	27

ユニット
UNIT
4

世界で一番いのちの短い国（1） ▶国際協力の活動について知る 29

1 話してみよう	30
2 読んでみよう	31
読み物 1	32
読み物 2	36
3 発表資料を作ってみよう	40
4 発表してみよう	43
5 話し合ってみよう	43
コラム 作文やレジュメを見せ合ってみよう	44
語彙リスト	45

ユニット
UNIT
5

世界で一番いのちの短い国（2） ▶国際協力の活動について知る 49

1 話してみよう	50
2 読んでみよう	51
読み物 3	53
読み物 4	58
読み物 5	65
3 発表してみよう	72
4 評価してみよう	73
5 話し合ってみよう	73
6 もっと調べてみよう	74
コラム のぞましい支援とは	75
語彙リスト	76

ユニット
UNIT
6

社会起業家の取り組み（1） ▶貧困を解決するために 83

1 話してみよう	84
2 発表の準備をしてみよう	86
3 クリティカルに読んでみよう	88
4 資料を読んでまとめてみよう	89
5 発表の計画を立ててみよう	89
コラム 「無料塾」と「子ども食堂」	90
資料 クリスマスプレゼントはなかった—子どもの貧困—	91
語彙リスト	93

ユニット
UNIT
7

社会起業家の取り組み（2） ▶貧困を解決するために 95

1 話してみよう	96
2 発表スライドを作ってみよう	97
3 発表の練習をしてみよう	99
コラム よい発表とは	100

ユニット
UNIT
8

社会起業家の取り組み（3） ▶貧困を解決するために 101

1 話してみよう	102
2 発表してみよう・聞いてみよう	102
3 評価してみよう	103
4 もっと調べてみよう	103
コラム NPOについて	104

ユニット
UNIT
9

私たちにできること ▶できることを考え行動する 107

1 読んでみよう	108
2 考えてみよう	109
3 話し合ってみよう	109
コラム 自分には何もできない？	110

ユニット
UNIT
10

私たちが学んだこと ▶自分が学んだことをふり返ろう 111

1 書いてみよう	112
2 話し合ってみよう	113
3 ふり返ってみよう	114
コラム ことばを学ぶ意味	115

オプション
ユニット
OPTIONAL UNIT

生の情報を得る ▶ゲスト・スピーカーの話を聞こう！ 117

1 調べてみよう	118
2 聞いてみよう	118
3 話し合ってみよう	119
4 書いてみよう	119
資料 子どもたちに教育を・大人たちに仕事を—NPO 法人アラジ代表 ユメミ—	120

付録
APPENDIX
表現集

使える表現・感情語

1 調べてみよう	123
----------------	-----

付録
APPENDIX
ユニット 6
読解資料

社会起業家の取り組み

資料①『おしゃれなエコが世界を救う——女社長のフェアトレード奮闘記』	132
資料②『[完全版]「20円」で世界をつなぐ仕事——想いと頭脳で稼ぐ新しい働き方』	148

この本の考え方

この本では、よりよい世界を目指すためにみんなで考えていきたいテーマとして「貧困」を選びました。貧困の問題は、どこの国にも、いつの時代にもあり、戦争や格差や差別の原因にもなっています。自分とは関係がないと思う人もいるかもしれません、自分の普段の行動が、遠い国の貧困と関わっているかもしれません。貧困の問題をテーマとして学ぶことは、みなさんにとって身近なことと世界の問題のつながりに目を向け、自分のこととして考える貴重な機会になるはずです。さらに、それを日本語で学ぶことによって、他の国の人々と知恵を分かち合うことができます。

この本は、日本語教育を通して世界の平和について学ぶことの大切さを教えてくれた縫部義憲先生（広島大学名誉教授）の「PEACE」というコンセプトがもとになっています。このコンセプトは、2009年に行われた最終講義で発表されました。「貧困」はこの「PEACE」の頭文字の「P : Poverty」に当たります。縫部先生は平和な世界にするために、これから以下の「PEACE」を考えいかなくてはならないとおっしゃいました。

P : Poverty (貧困からの脱却)

E : Education (すべての人に教育を)

A : Assistance in need (自立のための支援)

C : Cooperation & Communication (協働と対話)

E : Ecology & Environment (生命と地球環境の保全)



これらは2015年の国連サミットで採択された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標（SDGs: Sustainable Development Goals）にも含まれているものです。地球上の「誰一人取り残さない（leave no one behind）」と誓われているように、これらの問題は私たち一人ひとりが取り組むべきユニバーサル（普遍的）なものであると言えるでしょう。

また、この本は、CLIL (Content and Language Integrated Learning: 内容と言語を統合した学習) という教育アプローチに基づいています。CLIL（クリル）では、単に言語だけを学ぶのではなく、以下の4Cを意識して学んでいきます。

Content 内容	世界で起こっているさまざまな問題を理解する
Communication 言語	日本語で互いに伝え合う、学習スキルを高める
Cognition 思考	内容や言語の学習について考える
Community/Culture 協学・異文化理解	地球市民の一員として、仲間と協調する

この4Cを大きな車の車輪のようにイメージしてみてください。その車には一緒に学び旅するクラスの仲間も乗っています。まず一緒に旅する仲間のことをお互いに知り、共に世界のことについて考えていきます。このように、この本では、「貧困」という内容をもとに、日本語力だけではなく、すべての学びに必要な学習スキルや、深い思考力、互いを理解し協調していく力をつけることを目指します。楽しく学び、この本をきっかけに、よりよい世界をつくるため行動できる人になってもらえたうれしいです。



この本の使い方（この本で学ぶみなさんへ）

- 主に、中上級レベルが対象です。
おも ちゅうじょうしきる たいじょう
- この本は全部で 11 ユニット（ユニット 1～10 + オプションユニット）あります。
- ユニットごとに語彙リストがあります。語彙リストはやさしい日本語で説明されています。本文の理解に必要な意味だけを書いています。
- ユニットによって活動は異なります。
かつどう

[ユニット 2 の活動例]

1	話してみよう
2	読んでみよう
3	説明してみよう
4	書いてみよう
5	話し合ってみよう
6	もっと調べてみよう
	コラム
	語彙リスト

[ユニット 4 の活動例]

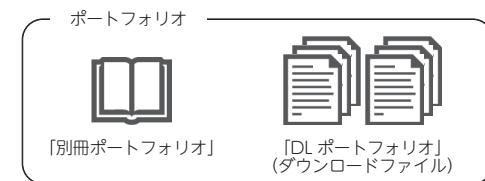
1	話してみよう
2	読んでみよう
3	発表資料を作ってみよう
4	発表してみよう
5	話し合ってみよう
	コラム
	語彙リスト

- 内容や意味を大切にしています。
- 日本に住む人の考え方や日本以外のことも学べます。
- ことばを実際に使うことを大切にしています。
- 教科書用に書かれたものではなく、一般用の本を読みます。難しいことばもありますが、こわがらずに読みましょう。
- ふりがなは、日本語能力試験（JLPT）N2 程度以上の語（ユニットで初めて出たもの／読み物はそのページで初めて出たもの）についています。
- もっと知りたいことは自分で調べてみましょう。調べるときには、自分が使える他の言語も活用しましょう。
- 別冊のポートフォリオも必ず使いましょう。学習効果も高まり、自分の成長を知ることができます。
- 自分の意見を言うことが恥ずかしくなります。いつのまにか日本語で考えたり、使ったりすることができる自分におどろくはずです。
- いろいろな考え方の人と学ぶことの楽しさをぜひ知ってください。
- 学校以外でこの本を使うときは、一緒に学ぶ人を見つけて勉強してみたり、オンラインツールも活用してみたりしましょう。



この本の使い方（教師のみなさまへ）

この本は、主に中上級の学習者を対象としており、全部で 11 ユニット（ユニット 1～10 + オプションユニット）から構成されています。本冊と毎回の活動に必要なワークシートがまとめられたポートフォリオに分かれています（ポートフォリオの一部は凡人社のウェブサイトからダウンロード可能です）。ポートフォリオは学習者自身の学びの記録になるもので、授業の最後のふり返りにも使います。また、成績をつける際の評価の対象にすることもできます。また、各ユニットの詳細については『教師用指導書』をご参照ください。くわしくは、下記サイトをご覧ください。



◀ 「DL ポートフォリオ」は
こちらから
(凡人社ウェブサイト内
特設サイト)

CLIL では、加工されていない生きた素材を使うことが勧められています。この本で紹介している読み物もできるだけそのままの形で載せています。ただ、学習者にとって見なれない語も多いので、巻末に語彙リストや話すときに便利な表現リストをつけました。語彙リストは、本文の理解に必要な意味だけ、やさしい日本語で書かれています。意味を自分で調べてほしいものについては【調べてみよう】という印がついています。辞書や翻訳ソフトを使って学習者が最も使いやすい言語で確認させてください。語彙リストの一部は web でダウンロード可能です。また、読み物のすべては掲載できないので、上級学習者には、本書で紹介している書籍をぜひ実際に手に入れて、できるだけ多くの内容に触れるようアドバイスしてください。中級学習者にとって読み物が難しい場合は、教師用指導書に挙げてある他の読み物に差し替えることもできます。また、学習者のレベルに関わらず、関連したホームページや映像を見ることも役に立ちます。

大事なことは、一字一句訳して、理解して覚えることではありません。内容に興味を持ち、自分の持っているもの（すでに持っている知識、日本語力、母語や他の言語の力、IT リテラシーも含まれます）をフルに使って、読み取り、意味を理解し、クリティカルに考え、話し合い、学びを深めることができます。意味のやりとりを大切に、日本語の間違いを恐れず、安心して、率直に自分の考えが述べられるような教室の雰囲気づくりを心がけてください。必要に応じて日本語に限らず共通に使える言語を使ってもかまいません。CLIL についてもっとくわしく知りたい方は、『日本語教師のための CLIL (内

容言語統合型学習) 入門』(凡人社) をご覧ください。

各ユニットのはじめに、そのユニットの目標が4Cごとに書かれています。4Cを意識しながら、無理なく、テーマについて調べたり、読んだりしながら理解を深め、それをポスターやレジュメ、発表などの方法を通して、クラスの仲間と共有し、話し合い、思考を深めていきます。そのときに、よりよいレジュメとは何か、発表とは何かなど、学習スキルについても考えながら学んでいきます。ときには、学習者同士で意見が異なることもあるでしょう。それは学びを深めるチャンスです。自分の意見との違いについて考えたり、相手を尊重しながら伝え合う機会にしてください。

本書の各ページの右の欄には、その活動に必要なキーワードやポイントが書かれていて、この本のキャラクターであるクリルンが学習者の学びをサポートしてくれます。空いているスペースには学習者自身が新しく学んだことばを書き込むなど、自由に使ってください。

活動の最後では、ポートフォリオを見返して、この本で何を学んだか振り返ります。日本語はもちろん、内容の理解が深まり、批判的に考えられるようになる、当事者として捉えられるようになるなど、それ以外にも多くの点で学習者の成長を感じることができます。

筆者たちは、この“PEACE”をテーマとして、7年間ぐらいオンラインを含めさまざまな教育現場で、多くの日本語学習者や日本語を母語とする学生たちと学びながら、この本を作りました。「この本の考え方」でも述べたように、この本は、日本語だけではなく、内容への深い理解、学習スキルの向上も目指しているので、継承語教育や、大学の初年次教育、中高生の国際理解教育などにも応用できると思います。

しかし、私たちは国際協力や、貧困学の専門家ではないので、まだまだわからないこと、知らないこともたくさんあります。また、本の内容と状況も変わってきているかもしれません。是非、学習者のみなさんと一緒に内容をアップデートしたり、目的や興味、レベルに合わせて差し替えるなどして自由にお使いください。



本書は JSPS 科研費 JP18K00691、JP19H01270、
JP18K00711 の助成を受けました。

Can-do リスト

コースの前とコースのあとにチェックを入れて、できることを比べてみましょう。

● Content 内容

/	/	No.	Can-do	主なUNIT
✓	✓	1	世界の現状と課題について知りたい。	1
✓	✓	2	貧困の現状について知っている。	2
✓	✓	3	貧困の原因や背景を知っている。	2
✓	✓	4	「シエラレオネ」を知っている。	3, 4, 5
✓	✓	5	国際協力の現場やしくみについて知っている。	4, 5
✓	✓	6	「社会起業家」を知っている。	6
✓	✓	7	社会起業家の活動について知っている。	6, 7, 8
✓	✓	8	社会起業家の活動の課題について知っている。	6, 7, 8
✓	✓	9	貧困に対する支援の方法について知っている。	6, 7, 8
✓	✓	10	貧困に対する自分ができる支援の方法について知っている。	9

● Communication 言語

/	/	No.	Can-do	主なUNIT
✓	✓	11	世界の現状や支援に関する資料を読むことができる。	4, 5, 6, 7, 8
✓	✓	12	読んだ資料をわかりやすくまとめてポスターを作ることができる。	3
✓	✓	13	読んだ資料をわかりやすくまとめてレジュメ(発表資料)を作ることができる。	4, 5
✓	✓	14	読んだ資料をわかりやすくまとめてスライドを作ることができる。	7
✓	✓	15	貧困に関することばを知り、他の人にわかりやすく説明することができる。	2, 3, 4, 5, 8
✓	✓	16	わかりやすい発表をることができる。	3, 5, 8
✓	✓	17	ディスカッションをすることができます。	8
✓	✓	18	発表を聞いて質問をすることができます。	3, 4, 5, 8
✓	✓	19	作文やレポートで自分の意見を書くことができる。	1, 10
✓	✓	20	発表、作文やレポートを評価することができます。	5, 7, 8

● Cognition 思考

/	/	No.	Can-do	主なUNIT
✓	✓	21	世界の現状や課題と自分との関わりについて客観的に整理できる。	1, 9
✓	✓	22	資料を読んで重要な情報を取り出し、まとめることができる。	4, 5
✓	✓	23	どのような発表、作文やレポートがよいかを理解している。	5, 7
✓	✓	24	発表、作文やレポートの準備を計画的にすることができる。	6
✓	✓	25	自分と他の人の資料の読み方や説明のしかたを比較することができる。	4, 5
✓	✓	26	他の人と話したいこと（ディスカッション・ポイント）を見つけることができる。	6, 7
✓	✓	27	他の人の発表や意見を聞いて、疑問点やもっとくわしく知りたいことを考えられる。	8
✓	✓	28	問題を解決するための方法（貧困に対する支援など）や課題を考えられる。	9
✓	✓	29	問題を解決するための行動を考えることができる。	9
✓	✓	30	学ぶ前と学んだあととの自分の考えを比べる。	10

● Community/Culture 協学・異文化理解

/	/	No.	Can-do	主なUNIT
✓	✓	31	ディスカッション・ポイントについて積極的に話し合うことができる。	7, 8
✓	✓	32	ペアやグループで発表の準備をすることができる。	3, 4, 5, 7
✓	✓	33	他の人の発表を聞いて質問することができる。	3, 8
✓	✓	34	他の人の発表やレポートを評価することができる。	5, 8
✓	✓	35	世界の現状と課題に関心を持つ。	1, 2
✓	✓	36	世界の問題と自分とのつながりに気づくことができる。	1, 9
✓	✓	37	異なる環境に住む人々について関心を持つ。	1, 3, 4, 5
✓	✓	38	他の人の価値観を認めることができる。	8, 9
✓	✓	39	世界の問題を解決する方法に関心を持つ。	6, 7, 8, 9
✓	✓	40	世界の問題を解決するために、他の人や自分ができることに気づくことができる。	9